



札幌市医師会 市民対話集会2013年

政策部長 松村茂樹

去る8月31日(土)に札幌市医師会館において、札幌市医師会主催の市民対話集会を開催いたしました。今回で10回目となる集会のテーマは、「TPPに参加したら私たちはどうなるの?」でした。吉野圭子さんの司会で、札幌市医師会の今真人副会長の挨拶の後、道東大空町の出身でテレビなどでおなじみの講談師、神田山陽さんの講演の後に、私と山陽さんでパネルディスカッションを行いました。

第一部は神田山陽さんの講演でした。山陽さんは、寄席の芸能の三本柱は、落語、浪曲、講談であること、この三つの中では講談の歴史が最も古いということ、さらに、元禄のころの講談は単なる芸能ではなく、ジャーナリズムであったということもあり、事件が起こったなら講談師が解釈をすることがなされていたということ、明治の20年代には、落語家が100人、講談師が280人いたのに、現在、講談師は70人不足であることなどについて話されました。山陽さんは、今回の講演会直前の8月にトルコを自転車で旅され、トルコ国民がすごく親日家であり、チャイ(紅茶)をたびたび勧められたこと、トルコ人が親日家であるのは、1890年に和歌山県沖でトルコの船舶が遭難した時に、日本人がトルコ人を助けたことが、友好の源であることを紹介され、その後も、フセイン統治下のイラクがテヘランの空爆を行った際に、テヘランに取り残された200人以上の日本人をトルコ政府が、100年前の借りがあからと飛行機を飛ばして救出したこと、さらに、トルコ大地震の時には、日本が仮設住宅を供与したことなど両国の関係を紹介してくれました。これらはま

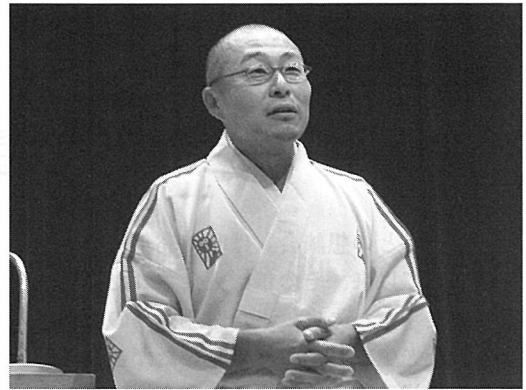
さしく、トルコと日本の間で、恩が行ったり来たり、人の情が行ったり来たりしたことの表れで、このように困った時に生まれるのが、本当のパートナーシップではないかと語られました。それに比べ、TPPは、利害関係だけなら本当のパートナーシップではないし、このままではTPPはどうにもならなくなるということや、TPPの「参加と撤退」「聖域としてのお米」「ISD条項」「TPPが秘密であること」などについて山陽さんなりの解釈を語られました。

第二部は、政策部長の私と神田山陽さんの二人で、パネルディスカッション形式でTPPと医療の関係についてスライドを使い説明させていただきました。スライドには、今回作成した「ドクターTPP」というキャラクターもイラストで登場して、ISD条項や、ラチェット規定について説明するなどして、TPPにより、まず最初に医薬品・医療機器の価格が上昇し、それにより医療保険財政が大幅に悪化し、医療費総額抑制政策のために、公的医療保険の給付範囲が縮小することになり、患者負担の増大をきたす可能性があること、さらに米韓FTAをみると、混合診療の全面解禁や、株式会社の医療経営への参入、さらに民間医療保険の拡大も懸念されることを、市民の皆さんにお伝えしました。

今回の市民対話集会には、210名を超えるたくさんの市民の方の参加が得られ、TPPと医療の関係について理解が進み、TPP反対という札幌市医師会の主張が十分に伝わったと思われました。



今 真人副会長



神田山陽氏



松村茂樹政策部長



司会 吉野圭子氏

